

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	連携型認定こども園ミナパもくせいの
施設所在地	東京都昭島市
法人名	社会福祉法人多摩育児会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『動植物』

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
当園は緑豊かな東京都の郊外に位置しています。クラス名を果樹の名前にしており、その果樹が全て植えてある果樹園の園庭があり、また、生き物もメダカや川魚だけでなく、烏骨鶏を飼育していて、産んだ卵を使用した食育も行っています。身近な園環境の中で動植物に出会う場が日常的にあり、“とうきょうすくわくプログラム”ではさらに興味関心の深まりを期待してテーマの設定を『動植物』としました。

2. 活動スケジュール

年間を通して室内に植物などの図鑑や本を準備し、植物に親しめる環境を準備する。

- ・9月かぶ種まき 絵本読み聞かせ「大きなかぶ」
- ・10月かぶのお世話 観察 葉っぱ調理保育 劇あそび「大きなかぶ」
- ・11月かぶのお世話 観察 劇あそび「大きなかぶ」
- ・12月かぶのお世話 観察 劇発表「大きなかぶ」
- ・1月かぶの収穫 絵画活動観察画 かぶの調理保育

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

室内に図鑑や本を準備し、植物に親しめる環境を準備。

- ・絵本「おおきなかぶ」 劇あそび用の衣装
- ・プランター2つ ・土 ・かぶの種 ・ジョウロ
- ・図鑑(植物・昆虫)
- ・虫カゴ(害虫観察用)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

日常的に室内では本や図鑑、絵本を通して植物に親しみ、活動を行っていた。
9月から“かぶ”の栽培を始める。種の観察、発芽の観察、毎日の水やりのお世話等続ける。日々、成長の観察を行いながら、間引きを行ったり、間引いた葉っぱで調理保育を行った。“かぶ”に興味を持った子ども達の中で「おおきなかぶ」の絵本が人気となり、劇遊びに発展する。
12月の発表会での劇演目を「おおきなかぶ」に決定し、発表を行う。
1月にかぶの収穫を行い、観察画を書いた後、調理保育を行い、食べた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

種をまくときには「ちっちゃい!」「これが”かぶ”になるの?」など、不思議そうにしていた。日々世話をする中で発芽を喜び、「おおきくなーれ」と絵本のように声をかける姿があった。育てている過程で葉に穴が開いているのを見つけ「あながあいてる!」「たべられちゃってる!」と虫の存在に気付き、搜索をしてあおむしを発見し捕獲した。室内で虫かごに入れしばらく観察した後、「にがしてあげよう」ということになり、園庭に逃がした。かぶを育てることを通して、絵本の「おおきなかぶ」で劇遊びに発展し、発表会につなげる事ができた。実際の収穫の際にも「うんとこしょ、どっこいしょ」と劇と同じセリフを言いながら収穫し楽しむ子が多かった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

種まきをして、発芽までの期間は3日だった。木曜に種を蒔き観察した。土、日休みで観察できず、週明けの月曜日に発芽していたため、発芽までの日数を考慮し種まきを行うと良かった。それによって前日との違いに気づける子もいたと感じた。

成長の過程で間引きをすることで大きくなることを知り、間引きをした葉っぱで調理保育を行った。調理保育を行うことで、更にかぶへの興味が深まり、お世話への情熱がでていた。観察を通して葉っぱに青虫を見つけた。虫の観察をして逃がしたが、青虫がどのように成長をするかを飼育し観察をしても良かったと感じた。

収穫したかぶで調理保育を行うと、野菜が苦手な子も食べ、食への興味にも繋がった。保護者と共有することで、家庭でも食事に出してくれた家庭もあり、伝えていくことで広がっていくことを感じた。